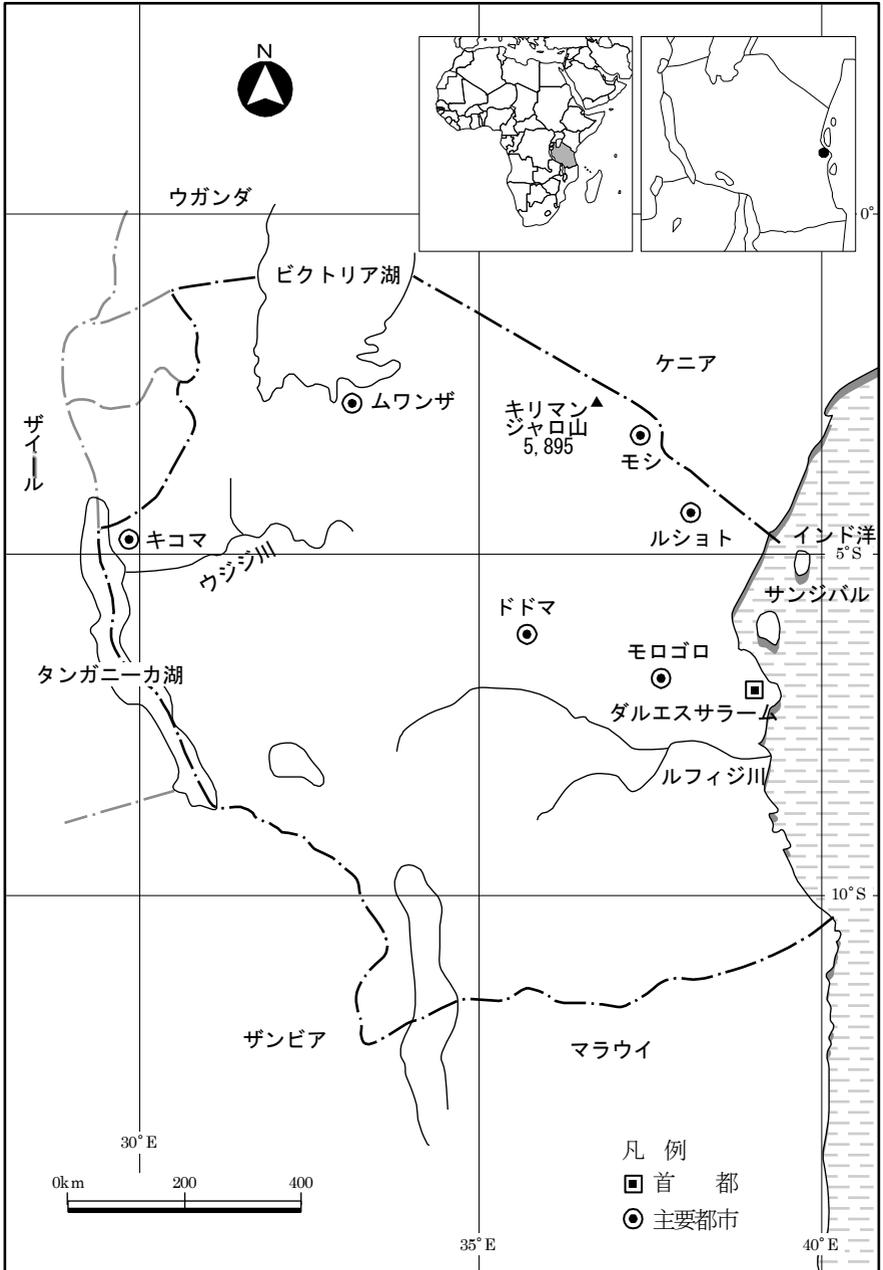


# タンザニア連合共和国



## (一般指標)

国名 (英名)	タンザニア連合共和国 (TAN : United Republic of Tanzania)		
国土面積	万 ha	8,836 (日本の2.3倍強)	
人口	万人	4,765.6 人口密度 41人/km <sup>2</sup> (2012年)	
首都名(英名)	ダルエスサラーム (Dares Salaam) 標高14m		
首都人口	万人	296.1 (2008年)	
主要言語	スワヒリ語(国語)・英語(公用語)、バンツー系諸語		
宗教	伝統信仰30%、イスラム教35%以上、キリスト教35%		
国連加盟年月	1961年12月(1961年12月独立)		
通貨単位	タンザニア・シリング 1米ドル=1606 (2013年7月)		
国民総所得: GNI	億米 <sup>F</sup> <sub>L</sub>	234 (2010年)	
一人当りGNI	米 <sup>F</sup> <sub>L</sub>	530 (2010年)	
主要産業	農業(コーヒー、綿花、とうもろこし、キャッサバ)		
日本から輸出	億円	228 (2011年)(主に車輛)	
日本の輸入	億円	204 (2011年)(主に貴金属鉱)	
土地利用	万ha	耕地	1,150 (13.0%) (2009年現在)
		森林	3,383 (38.2%) (2009年現在)
		牧場・牧草地	2,400 (27.1%) (2009年現在)
度量衡	メートル法		
祝祭日	1月1日元日、12日サンジバル革命記念日、26日連合記念日、5月1日メーデー、8月8日農民の日、10月14日ニエレレの日、12月9日独立記念日、25日クリスマス、26日ボクシング・デー 移動祝日: 聖金曜日、復活祭、ラマダン明け、巡礼の日		
気候	沿岸部の低地は熱帯サバナ気候 Aw で、中央の高原地帯はステップ気候 BS、内陸部の山岳地帯は熱帯型の高山気候で気温の変化が少なく降雨も一定している。南部には温帯夏雨気候 Cw もみられる。 首都ダルエスサラーム: 1月 27.6℃ 7月 23.6℃ 年降水量 1,140mm		

(森林指標)

(森林面積)

森林面積 (2010)	千 ha	33,428
森林率	%	38.0
森林減少率 (2005-2010)	%	-1.2

(森林蓄積)

森林蓄積(2010)	百万 m <sup>3</sup>	1,237
ha 当たり森林蓄積	m <sup>3</sup>	37

(人工林面積)

人工林面積 (2010)	千 ha	240
森林面積に対する割合	%	1.0

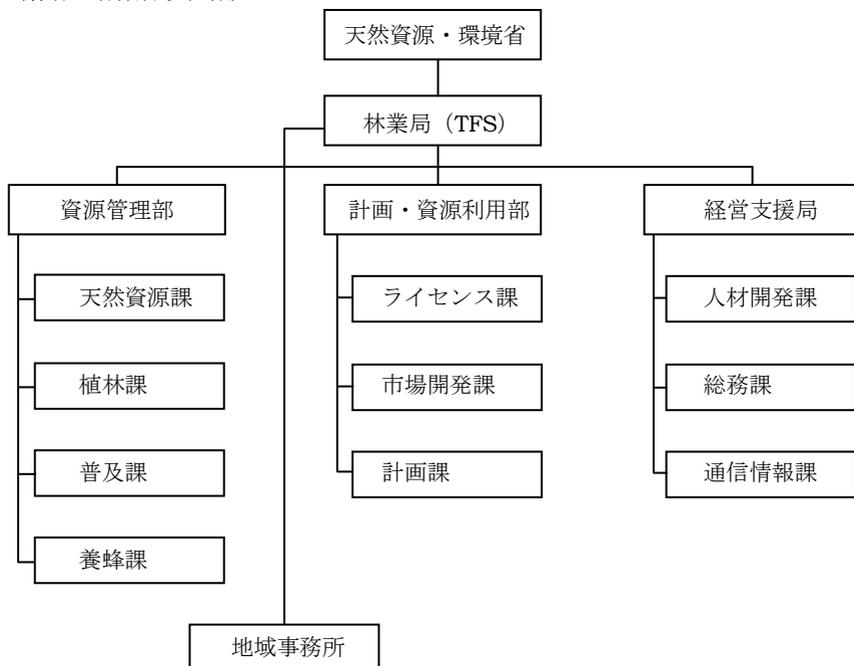
(森林所有者)

公的機関	%	100.0
民間	%	-

(炭素蓄積)

炭素蓄積 (2010)	百万トン	2,019
年平均炭素蓄積変化 (2005-2010)	千トン/年	-24

(森林・林業行政組織)



林業省はタンザニア国の森林の管理及び養蜂資源の管理に関する権限を有している。その根拠法律・規則は以下のとおりである。

- ・省令 No.245 (2009年改正)
- ・森林法 No.14 (2002年)
- ・養蜂法 No.15 (2002年)

(森林・林業政策)

タンザニア政府は、1970年代に「村落林業」と称する地域住民を動員しての大面積の造林を計画したが、その結果は良い成果を得ることができなかった。1980年代には住民が主体となる参加型開発がはじまり、林業政策は国有林から地域住民に対する普及を重視するようになり、各県への権限の委譲が行われた。

政府は、1988年に Tanzania Forestry Action Plan (TFAP) の策定に着手し、森林・林業セクターの発展に努めてきた。この TFAP は 1992～1994 年にかけて改訂された。

1990年後半になり、特に保全林の場合地域住民の意向を無視して一方的に国の管理に移管したことによる盗伐、山火事などの問題が起り、この保全林を管理すべき保全林管理事務所が機能しないことから、これらの保全林は劣化が進んできた。このため林業・養蜂局は、地域住民と共同で森林管理と利用を行う方針に転換し、共同森林経営が導入され、地域住民が森林資源管理の中心的役割を果たすようになった。

なお、我が国はプロジェクト方式技術協力によるキリマンジャロ村落林業計画（1991～1998年、フォローアップ1998～2000年）を実施し、同国の林業の発展に寄与した。更に、青年海外協力隊によるプロジェクト、NGOのプロイジェクトも森林の維持造成に寄与している。

1999年5月に政府は林業・養蜂国家計画を採択した。その最終目的は、タンザニアの持続的発展に対する林業と養蜂分野に役立つことである。政策に導入された新たな考えと方策には、①特別な機関または民間部門による公的森林の経営、②森林の中または周囲に居住する地方のコミュニティー及びNGOの土地使用权と利益を考慮し、森林と樹木の所有について明白な定義を持った共同経営協定の設定、③養蜂慣習の保護、④森林地域におけるエコツーリズムへの民間部門及びコミュニティー関与の推進、⑤森林地への投資のための環境評価の必要性を含んでいる。

2002年に制定された森林法は次のような事項を目標としている。

- ① タンザニアの持続的開発及び天然資源の保全・管理に果たす森林セクターの奨励
- ② 個人、地域社会の開発を通じた森林資源の持続的計画、管理、保全に果たす住民の積極的な貢献を促すこと
- ③ 森林の多様性の保全、流域保全、土壌保全を通じたエコシステムの安定性の確保
- ④ 森林管理の責任を地域にも委譲すること
- ⑤ 林産物の市場性を向上させ、輸出を規制すること
- ⑥ 天然資源管理に関し関係機関の調整及び協力を強化すること
- ⑦ 研修、普及活動等により持続的森林管理に関する意識の向上

このような目標の下森林を以下の4つに区分している。

- ① 国有林
- ② 地方政府所有林

- ③ 村落林
- ④ 私有林

#### (森林の現況)

タンザニアの大陸部は東部で太平洋の海岸に接し、一部（ザンジバル）は太平洋の洋上の島嶼である。キリマンジャロ山の周辺、大地溝帯の周辺の高地、太平洋岸では降雨に恵まれ湿潤であるが、内陸部低地はやや乾燥した国土となっている。

FRA2010によると、2010年現在のタンザニアの森林面積は、3,243万haであり、森林被覆率は38%となっている。2005年以降の森林減少は年平均403千haであり、森林減少率は1.16%となっている。

タンザニアの森林植生は、次の4つに大別されている。

- ① 半落葉熱帯降雨林
- ② サバナ林
- ③ 半落葉熱帯山地降雨林
- ④ 準砂漠

これらの分布および特徴は、①半落葉熱帯降雨林の中には、この気候区分よりやや乾燥地の植生として、広葉雨緑乾燥熱帯林（火災による妨害極端である Miombo 林（ミヨンボ林））がタンザニア西半の高原、台地に広く分布している。また、②サバナ林の中には、タンザニアの北東部に有刺林サバナが発達している。

森林資源は、火災、焼畑、過放牧及び無秩序な伐採という問題があるにもかかわらず、造林が進まず、非常に厳しい現実に直面している。しかしこれらの改善のための予算不足対策と土地利用の調整が実施されていない。

主な在来樹種はケニアと同じである。

#### (人工造林)

タンザニアの人工造林は、1900年代の初頭からドイツ人の指導により、アマニの植物園（1902年創設）で試験造林が行われ、試験造林樹種は、商業樹種が選拔され小規模に行われた。その後、1918年（第1次大戦後）イギリス人により100種を超えるユーカリ類、50種のマツ類が熱帯各地から導入された。1950年代に入ると、タンザニア各地に見本林が造成され、1952年に設立されたルシヨト見本林は、熱帯アフリカ

における最大規模のものの一つになった。その後、1952年には政府直轄造林計画が策定されて、丸太、柱材、薪炭材の生産を目的として、16千haの造林計画が立てられた。この計画は、1962年までに85%達成された。さらに、1960年代後半より1970年代前半にかけて、大規模産業造林が実施され、79千haの人工造林地が造成された。

1967年以降は天然林の過伐と、薪炭材不足および環境破壊に対処するため、全国土を対象とする住民参加形式の村落造林キャンペーンが開始された。1986年にはスウェーデン国際開発庁（SIDA）との国際協力により、アリューシャ地区を中心に社会林業プロジェクトが発足した。その後社会林業の対象地は、広大な荒廃地の広がるドドマ州を中心に展開された。わが国も、社会林業の発展のための技術協力を実施した。

FRA2010によると、総造林地面積は240千haあり、主要な造林樹種はマツ類である。マツ類の外にも、*Cupressus lusitanica*は高地の降雨量の多い個所の製材用樹種として造林されている。

また、主要造林樹種は次のとおりである。

- △ *Pinus patula*
- ◎ *P. caribaea*
- △ *P. radiata*
- △ *P. kesiya*
- △ *Cupressus lusitanica*
- △ *Juniperus procera*
- ◎ *Eucalyptus saligna*
- ◎ *E. grandis*
- ◎ *E. globulus*
- ◎ *Tectona grandis*
- ◎ *Grevillea robusta*
- △ *Chlorophora excelsa*
- ◎ *Maesopsis eminii*
- ◎ *Terminalia ivorensis*
- ◎ *Cassia siamea*

注：△は、主として高地で降水量の多い地域 ◎は、主として乾燥低地で植栽さ

れている。

(天然林施業)

タンザニアにおける天然林施業は、ケニアにおけるそれとほぼ同じ方法で行われてきた。すなわち、高地多雨林を対象とした用材林施業と、沿岸林や疎林を対象とした用材・薪炭林施業が採られてきた。ただし、タンザニアでは人工補整作業の中で更新障害木の巻枯し、つる切などが実行されたが、後継樹の生長が遅いことから、良好な成果は得られなかった。また、タンザニアにおいては毎年 30～40 万 ha の林地が農地に転用されており、家庭用エネルギーの 98%が薪炭に依存していることから天然林施業の対象面積は減少しつつある。択伐で生産されてきた主な樹種の一部を掲げると次のとおりである。

- ・ *Juniperus procera* (Mutarakwa)
- ・ *Beilschmiedia* spp.
- ・ *Ocotea usambarensis* (Muura)
- ・ *Chlorophora excelsa* (Mvule)
- ・ *Albizia coriaria* (Mukurwe)
- ・ *A. zigia*
- ・ *Brachystegia spiciformis* (Mtundu)
- ・ *Dalbergia melanoxylon*
- ・ *Podocarpus gracilior*
- ・ *P. millanjuanus*
- ・ *Pterocarpus angolensis* (Muninga)
- ・ *Khaya nyasica* (Wkangazi)
- ・ *Polyscias kikuyuensis* (Mutati)
- ・ *Prunus africana* (Muiru)

注：( ) はスワヒリ名である。

(林産業)

生産林は薪炭材の生産に使用され、薪炭材は国民の重要な燃料であり、国民の 90%

が薪炭材に依存している。

原木生産量の推移と木材貿易量は以下の表のとおりである。

原木生産量の推移

単位：千 m<sup>3</sup>

年次	薪炭用	用 材				原木生産量 合計
		製材用、 単板用	パルプ用	その他	合計	
1985	17,983	222	10	1,106	1,338	19,321
1990	18,567	317	145	1,484	1,946	20,513
1995	20,435	317	153	1,703	2,173	22,608
2000	20,787	317	153	1,844	2,314	23,101
2006	21,914	317	153	1,844	2,314	24,228
2010	22,836	317	153	1,844	2,314	25,150

注：その他は杭、マッチ、ポスト、柵 など

木材貿易量（2010）

単位：数量万 m<sup>3</sup>、金額万ドル

製 品 名	輸 入		輸 出	
	数 量	金 額	数 量	金 額
丸 太	0.1	—	1.3	582.0
製 材	1.5	441.7	7.2	2,611.2
合 板	0.6	459.0	—	—

出典：Tanzania Forest Service (TFS) Agency

(<http://tfs.go.tz/index.php/about-tfs/organization-overview>)